

2 タイムライン及びホットラインの効果と課題 (協議会市町からの意見)

	効果	課題
タイムライン	<ul style="list-style-type: none"> ○国、県、市など関係機関の行動が把握できる。(延岡市) ○タイムライン形式の表の作成により、早め早めの対応を行うことができた。(高千穂町) ○気象情報や雨量測定値、日之影橋水位で確認した情報を基に、タイムラインに照らし合わせて体制及び対応を取ることができる。(日之影町) ○台風18号において役に立った。(五ヶ瀬町) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な洪水・土砂災害に対応したタイムラインに沿った訓練等を行い、更に災害時の関係機関の行動を把握する必要がある。(延岡市) ○これまでの経験値に基づき独自に避難基準を設けている町民に対して、どうしたらタイムラインどおりの行動を促すことができるかが課題である。(日之影町) ○更なるタイムラインの活用方法について関係者と調整したい。(五ヶ瀬町)
ホットライン	<ul style="list-style-type: none"> ○国、県からの情報提供等があることで、避難情報の発令の目安となる。(延岡市) ○事前に作成したタイムラインに基づき、西臼杵支庁からの連絡があって躊躇することなく避難勧告等を発令することができた。(高千穂町) ○宮崎県河川情報システムで随時確認しているが、河川管理者と直接やりとりできることは、状況を確認する上で有効である。(日之影町) ○台風18号において役に立った。(五ヶ瀬町) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な洪水・土砂災害に対応したタイムラインに沿った、ホットライン実施の訓練等を行い、更に災害時の関係機関の連携を深める必要がある。(延岡市) ○台風18号では、北川ダムの放流量が急激に増え、避難指示の発令タイミングに苦慮したので、今後は、タイムラインやホットラインに、ダム管理者などの関係機関にも参加してもらい、事前の放流見込みなどの情報を共有することが必要である。(延岡市) ○地域の立地条件を考えた場合、降水量と土砂災害情報が住民避難の情報収集発令の大きな要因となるので、早期の情報提供が必要。(五ヶ瀬町)